

當郡多部屋本

山口左吉郎様

日

市興



此の書方とて又も信を以

難有、抑て常にお話件

逐一品に語り且先方より

お状も回人より渡りてせ、之を

知りて彼より此にお状の表面

幾多の事情の龍虎の交りて

際を指しとて部分の少くも

文脈の趣意を述べてその戒め

文雅と無学を去る事の戒

わづやうありふし 是れ也誤

明世と先方とふれを悟ふ通

うゝむらがせの浮世と云ふ

冥かひと自ら諦めたる皆

己の運の拙き嘆きなりといふ

物語と云ふれは涙を流さる

金子と云ふけと金ふと思ふ

と云ふも並れと云ふはなり

うゝつとて連束傍観するも

うゝ仰と通する園や庭を

と云ふと 親度、仲間と



山口市 新屋、竹百子

山口市 新屋、竹百子

先之 水石寺、度之

如月

丁丁丁

佐子

山口市 婦人

因

大碑

中書佐子

丁丁丁